

先進地調査等報告書

令和4年11月7日

天童市議会議長様

会派名 てんどう創生の会

代表者氏名 遠藤 喜昭



下記により、会派において調査（視察）が終了したので報告します。

記

期 間	令和4年 10月 31日（月）	
調査（視察）先 調 査 項 目	埼玉県秩父市 10月31日 秩父地域おもてなし観光公社 歴史的建造物を活用した古民家再生ホテルの取組など	
調査（視察）目的	秩父地域おもてなし観光公社の事業について視察を行うことで、本市における地域資源の活用及び地域振興について見識を高める 市町村議会議員特別セミナーを受講することで地域振興、建材政策などについての知見を深める	
市 政 と の 関 連 性	本市でも増加している空き家。この問題の解決の糸口になるリノベーションによる宿泊事業。本市にも取り入れる事ができるか調査してきた。	
調査（視察）内容	秩父市は、広域による観光連携をしており、民間業者と協力して市内空き家をリノベーションした。宿泊施設としてリニューアルして観光への誘導に繋げている。	
市 政 の 課 題 へ の 参 考 等	本市においての空き家をリノベーションして宿泊施設として生まれ変わらせれば、空き家の減少、更に交流人口増加にも寄与することができる。秩父市の内容は参考になった。	
参加者の感想等	参加議員氏名	感 想 等
	遠藤 喜昭	別紙
	渡辺 博司	別紙
	三宅 和広	別紙
	笹原 隆義	別紙

※参加議員全員が各調査（視察）先ごとに感想等を記載すること。

研修会等参加報告書

令和4年11月7日

天童市議会議長様

会派名 てんどう創生の会

代表者氏名 遠藤 喜昭



下記により、会派において研修会等に参加してきましたので報告します。

記

研修会等名	市町村議会議員特別セミナー	
主催団体名	公益財団法人 全国市町村研修財団	
日時	令和4年11月1日(火) ~ 2日(水)	
	13時00分	13時00分
会場・場所	市町村アカデミー	
全体参加者数	100人	
内容等	自治体議会のずれ、その分析と補正 あるものを使い切る、あるものから新しい価値を作り出す コロナ後の日本のまちづくり 地域再生の失敗学 ~地域経済の現状と課題~	
市政の課題への参考等	議会として、議員定数を単に減らすだけではなく、いかに市民との話し合いによる活動を行うか。改めて勉強になった。	
参加者の感想等	参加議員氏名	感想等
	遠藤 喜昭	別紙
	渡辺 博司	別紙
	三宅 和広	別紙
	笹原 隆義	別紙

※参加議員全員が感想等を記載すること。

一般社団法人 秩父地域おもてなし観光公社の取組について
(古民家再生ホテル)

てんどう創生の会 遠藤喜昭

てんどう創生の会におきまして、令和4年10月31日表記の件の視察につきまして下記の通りご報告申し上げます。

記

1 一般社団法人秩父地域おもてなし観光公社の主な取組

- ① 農泊を利用した修学旅行の誘致
- ② サイクルっとちちぶ 広域レンタサイクル
- ③ ちちぶ案内人倶楽部 秩父市と周辺自治体との連携
- ④ 地元酒に着目した観光振興～ちちぶ乾杯共和国～
- ⑤ SNSの活用（フェイスブック、ユーチューブ）
- ⑥ 地域商社構築プラットホーム設立 地場産商店
- ⑦ 古民家再生ホテル

2 古民家再生ホテルについての感想

昔から中山道の宿場として、近代に入ってからセメント産業で栄えた町でしたが、近年はその産業も大きく後退して人口減少に拍車がかかっていた。一般社団法人秩父地域おもてなし観光公社は、観光を中心とした産業に着目し秩父市とその周辺のまちと協働で行う窓口となっている。その取り組みは地域の将来を憂いた必死さが伝わってくる。

市内の街中に点在している空き家古民家を、ホテルに再生して観光客を呼び込もうとする発想が素晴らしいし、東京周辺や日本文化に関心が高まっている外国人客の受け入れを想定して先を見通した点にも感心させられた。今後街中に点在する古民家について、コロナ後の誘客状況の推移を見ながら展開していくとのこと。

本市でも観光地域づくり法人DMOを立ち上げ、誘客に向けた様々な取組を行っているが、ホテルではなく国内外からのお客様に喜ばれる古民家の利活用について、今のうちから検討していくことも考えていく必要があると感じた。

以上

令和4年度第2回市町村議会議員特別セミナーに参加しての感想

遠藤 喜昭

「自治体議会のズレ、その分析と補正」

元衆議院法制局参事

吉田 利宏氏

感想

議員としてあらためて心に留め置くこと

- ・リモート技術を有効活用し多くの人から意見を聞くことができる。
- ・政務活動費はグレーゾーンが多い。議会の自立権認められているので、議会ですっかり議論のうね内容を決定する。
- ・審議に際しては他の議員と必要な情報を共有し論点を整理し、議会で一致できる点を見つける努力が必要。特に与党議員が検討議論をせず賛成するのは仕事をしていない。
- ・多数決で決めざるを得ないからこそ、そこに至るまでの議論や結果を記録や記憶することが多様性や人権を守る議員の資質。

「あるものを使い切る あるものから新しい価値を作り出す」

銘建工業株式会社代表取締役

中島 浩一郎氏

感想

銘建工業は林業で出た廃材を生活に必要な木質ペレットの商品化や木くずを使ったバイオマス発電、更には合板技術を屈指した鉄やコンクリートに替わりビル建築にも使える資材（名称CLT）を作るなど、国内業界での地位を築いている。みどり環境贈与税の活用 of 進行にあわせ将来の林業は可能性がひろがってくるというお話を伺った。

本市においてみどり環境贈与税による調査はどうなっているのか、バイオマス事業に乗り出す事業者はあるのか、またどのように進んでいるのか確認したい。

銘建工業事業を視察したい。

「コロナ後のまちづくり」

日本総合研究所調査部主席研究員

藻谷 浩介氏

感想

世界と比較した日本のコロナや政治経済の現状の分析が中心で、一番期待していた講演だったが、期待外れに終わった。ただ、日本は世界に先駆けて少子高齢化を迎えた分、早く高齢化社会が終わり、子供が増えるかが将来の日本のカギとなることや、田舎には視覚、聴覚、臭覚、味覚、触覚を味わえるものがそろっており、五感を取り戻すために田舎の自然に触れることが大切という話が妙に納得でした。ただ、コロナ後の具体的なまちづくりが聞けず残念。

「地域再生の失敗学～地域経済の現状と課題～」

明治大学政治経済学部教授

飯田 康之氏

感想

気になった点を列記

- ・円安は決してマイナスではなく、海外から企業や人等多くのものは入ってくる。
- ・人口増加は地域活性化とは繋がらない。どのような人が移住するかを考える。
- ・地方都市に必要なものは地元企業や個人経営店の発展、起業希望者を生み出し引き付ける、クリエイティブ人材を引き付けることで「本社の」業務の内生化に繋がり、消費喚起や投資流入策にもなる。
- ・リストラ型生産性向上は日本を不幸にする。人材のレベルアップ。
- ・高付加価値とは国内における狭く深いニーズの発見。
- ・Uターン、Iターン者の仕事の紹介（特にキャリア女性を引き付ける）や地域における女性の立場の向上が必要。
- ・他地域モデルが適合する可能性は低い。その地域特有の付加価値を高めていく為に、地域の持つ人的ネットワークを活用することは必要。

以上

てんどう創生の会
渡辺 博司

秩父市視察の感想

埼玉県秩父市の秩父地域おもてなし観光公社の事業について視察を行った。

1市4町（秩父市、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町）が、「ちちぶ定住自立圏構想」協定により、観光連携を推進する団体として、秩父地域おもてなし観光公社を設立した。

歴史的建造物を活用した古民家再生ホテルの取組みをされており、本年8月5日に8室オープンしている。有名シェフのレストランも入り、豊かな水で育まれた食材をふんだんに使った料理は、体と心が満たされる力強い味わいになっていた。リニューアルされた部屋は誰しもが宿泊したい気持ちになる一室であった。

秩父地域おもてなし観光公社以外にも、民間で古民家を再生している宿泊施設もあった。空き家を再生させる方策の一つとして考えさせられた。

市町村議会議員特別セミナー受講の感想

講義1 「自治体議会のズレ、その分析と補正」

ズレを冷静な判断で分析し、補正していく。事例を踏まえての講義であったため、理解しやすく、心に響く内容であった。

講義2 「あるものを使い切る」「あるものから新しい価値を作り出す」

講師は、木質ペレットの国内トップメーカーの経営者であり、工場で発する木くずを燃料に利用するバイオマス発電所を整備した実績のある方であった。

また、木をクロスさせ重ねた新素材を開発し、その素材はビルのような高い建設に使える強度とのことであった。そういった一連の実績から、現在では中規模木造建築事業の経営にも乗り出している。

講師の経歴はまさに「新たな発想で、あるものから新しい価値を作り出す」ことを体現しており、説得力のある内容であった。

講義3 「コロナ後の日本のまちづくり」

日本は、新型コロナ対応が典型であるように、現在も鎖国時のように自閉しがちである。

しかしながら、世界一高齢化した日本での新型コロナ感染は、先進諸国に比べて（人口比で比較すると）死者数も感染者数も非常に少なかった。

新型コロナは今までの移住定住の考え方を変えた。テレワークが進んだことにより、都会に住むのではなく、田舎に住むという選択肢が増え、一部の過疎地が再生されているとのことであった。

若者の都会集中の背景には、日本人の五感の衰退があるとのことで、自然に触れて触角を取り戻すことが必要だと講師は熱弁していた。

講義4 「地域再生の失敗学 — 地域経済の現状と課題」

地域経済の循環構造は、地域への支出により、地域内の生産・販売活動から所得が生まれる。地方都市に必要なものは、「本社の」業務の内生化であり、それが消費喚起・投資流入策につながるとの事であった。

地域経済の付加価値を高めるためには、その地域の強みと、地域のもつ人的ネットワークが必要であるという内容であった。小さく生んで、大きく育てるということの重要性を感じた講義であった。

以上

先進地調査等報告書(別紙) 参加者の感想等

てんどう創生の会

三宅 和広

1 日程、視察(研修)先及び内容

日 程	視察(研修)先	内 容
10月31日(月)	埼玉県秩父市 秩父地域おもてなし観光公社	歴史的建造物を活用した古 民家再生ホテルの取組みなど
11月1日(火)～ 11月2日(水)	千葉県幕張市 市町村職員中央研修所	市町村議会議員特別セミナー

2 参加者の感想等

(1) 埼玉県秩父市 歴史的建造物を活用した古民家再生ホテルの取組みなど
一般社団法人秩父地域おもてなし観光公社の井上正幸事務局長から同公社の
取組み状況についてご説明いただいた。

古民家再生ホテルは、株式会社西武プロパティーズ、三井住友ファイナンス&リ
ース株式会社、株式会社 NOTE、一般社団法人秩父地域おもてなし観光公社の4
社で設立した合同会社「秩父まちづくり」が経営しており、現在、2棟の古民家が改
修され、「NIPPONIA 秩父 門前町」として運営されている。

1泊 35,000 円と高めの料金設定にしているが、これはすでにある旅館との差
別化を図るためであり、これによりホテル開設時に反対した旅館はなかったとのこ
とであった。実際にホテルを見学させていただいたが、昔の梁が見える部屋や土
蔵を改修した部屋などたいへん趣があり、高めの料金設定でもニーズはあるだろ
うと感じた。

「農泊を利用した修学旅行誘致」についてもお話をお伺いした。一般の家庭に宿
泊するホームステイにより修学旅行を受け入れるというもので、コロナ前には毎年
1,000 人を超える人数を受け入れていた。「農泊」と言っても農業体験をすること
に限らず、食事作りや犬の散歩など普通の家庭生活の体験をしていただくことを
内容としている。

本市でも実施できる取り組みであると感じた。今後の参考にしていきたい。

(2) 千葉県幕張市 市町村議会議員特別セミナー

以下の4人の講師の講演を聴講した。

①「自治体議会のズレ、その分析と補正」

(元衆議院法制局参事 吉田利宏氏)

- ・ズレの効用～執行部とのズレを活かす～
- ・市民感覚とのズレ
- ・法律上の使命とのズレ
- ・時代とのズレ

②「あるものを使い切る あるものから新しい価値を作り出す」

(銘建工業株式会社代表取締役 中島浩一郎氏)

- ・バイオマス事業
- ・バイオマスの取組みを地域に展開
- ・バイオマス集積基地
- ・中大規模木造建築事業
- ・SDGs との関わり

③「コロナ後の日本のまちづくり」

(日本総合研究所調査部主席研究員 藻谷浩介氏)

- ・実力と乖離した「身分」が固定化
- ・英会話力と海外個人旅行経験が乏しく、良いも悪いもガラパゴス化が極まる。
- ・教育＝観念論の丸暗記で、自分で事実を確認しないエリートが跋扈
- ・攘夷気分が上下左右に蔓延

④「地域再生の失敗学～地域経済の現状と課題～」

(明治大学政治経済学部教授 飯田泰之氏)

- ・世界経済のフェーズ変化、取り残される日本
- ・人口減少は絶望ではない
- ・地域経済の真の危機、東京型経済モデルの終焉
- ・販売から資金流入をはかる
- ・消費と資産をとりもどす
- ・投資先としての魅力を高める

報告書

令和4年11月5日

笹原隆義

てんどう創生の会が行った視察の報告書を下記に示します。

記

1. 日時

令和4年10月31日（月）～2日（水）

2. 場所

埼玉県秩父市、市町村アカデミー

3. 内容

古民家再生ホテルについて

自治体議会のずれ、その分析と補正

あるものを使い切る、あるものから新しい価値を作り出す

コロナ後の日本のまちづくり

地域再生の失敗学 ～地域経済の現状と課題～

4. 内容

古民家再生ホテルについて

秩父地域の1市4町による定住自立圏による観光連携「秩父地域おもてなし観光公社」と民間業者による古民家再生プロジェクト、民業圧迫にならないよう値段設定は周辺旅館より高く設定されている。そのために旅館組合からの反発は受けないとの事。

古民家は持ち主より10年から15年の期間で借り（再契約も可能）、ホテルへのリノベーションでおおよそ2億円かけて改修。大家へは月4～10万円ほど支払う。

市町村アカデミーは下記

5. 所見

民間業者との共同プロジェクトで、三井住友フィナンシャルグループ、西武鉄道グループといった大会社の協力のもと事業が行えている点においては、本市においてすぐに真似ができるか疑問が残る。ただ、市の指定文化財になっている建物がホテルとして機能している点は、県外の人、更に外国人にとっては、魅力的なものであろう。本市においても年季の入った空き家が存在しており、リノベーションで宿泊施設にできれば、一定のニーズは出てくると思われる。ただ民間業者が採算が取れるか、これまた疑問。そもそも採算が取

ればとっくの昔に事業化されていただろうし、魅力的な事業であるが、現実的に難しいと思われる。

自治体議会のずれ、その分析と補正

元衆議院法制局参事 吉田利宏氏

議会は多様性が大事であり、その多様性を認め合う必要がある。首長や行政執行部より市民の声に近い。執行部とのずれ、これは議会の多くの議員が一致した分、議会の結論の方が執行部の考えより市民に近い。しかし、市民感覚とのずれをどう解消するのか。住民と向き合う大切さを感じた。

特に、当選回数を重ねた議員が議事を住民目線を大事にして議事を引っ張っていく必要性があるという事は、本市の議員にとっても理解してもらいたいと思った。

議員報酬と議員定数についても言及があり、あるべき議員報酬や議員定数の議論を通じて、議会の果たすべき役割を住民と確認・共有すべき点は、正直、我々の対応が不十分であったのではなかろうかと感じる。特に私が接した多くの市民から、なぜ1名だけ削減なのか、もっと減らすべきではといった声を多く聞いたためだ。

議員内閣制をとってない地方自治体の議会では、議決に当たっては十分な調査と議論が出来なければ市民を裏切ることになるといった点は、改めて気を引き締めるべきだと思った。

あるものを使い切る、あるものから新しい価値を作り出す

銘建工業株式会社 代表取締役 中島浩一郎氏

経済テレビにも出演した社長による講演で、木材の廃材を活用したバイオマス発電による雇用創出、環境保全と地域貢献を通じた会社運営に興味深く聞いた。特に国内の林業は生計を立てるのが難しい状況であり、それは海外、特に北欧に比べて大きく劣っているとの事。日本の森林面積は非常に大きく、林業先進国から学ばなければ、ますます林業が成り立たなくなると警鐘を鳴らした点は勉強になった。

コロナ後の日本のまちづくり

日本総合研究所調査部主席研究員 藻谷浩介氏

地方の真価とは、過疎ならぬ適疎、過密ならぬ適密、令和の成長産業である農林業と日本の国技である製造業の現場を持つ。若者の一極集中の背景には、日本人の五感の衰退があ

る。特に触感の衰えは深刻。自然に触れて触感を取り戻すべき。

田舎で五感を満たし暮らしながら、時たま都会に遊びに行くのが一番豊かな暮らし方。国が一極集中の是正と言うなら、こういった事をもっともっと国が先導を切って国民に周知すべきと感じた。

地域再生の失敗学 ～地域経済の現状と課題～

明治大学政治経済学部教授 飯田泰之氏

円安による国内回帰が進んでいるが、国内での勝ち組、負け組が出ている。九州地方は勝ち組で東北地方は負け組であるとの事。特に電気料金の値上げが大きく、原発を再稼働している九州は安い電気料金で済んでいる事が理由である。

人口減少は絶望ではない。人口増加は地域活性化目標にならない。

インセンティブ政策の問題点、つまり安易な給付金・支援金は一時の人口増にはつながるかもしれないが、長期的には間違いなく財政圧迫になる。具体例として、群馬県南部や静岡県西部はブラジル人を多く受け入れして、工場勤務についたが、不景気で経済的に低い人から解雇されて生活保護にうつる。このことで財政を圧迫してしまう。また近隣自治体が目新しい給付金を打ち出して、それに追随して周りの自治体が同様に給付金を打ち出すとチキンレースになってしまう。まさに本県の子育て施策がそれにあたるのではなかろうかと思った。

これからはいかに、地域経済の循環構造を作れるか。これにかかってくる。

生産、分配、支出を同一地域でうまく回していくことが大事。コンビニ、ファストフードなどFC店舗は、確かに地域雇用を生んでいるが、ロイヤリティが本社に流れてしまう。つまり東京にお金が集まってしまう。

消費と資産を地方に取り戻すべき。男女の学歴がほぼ同等になっている。地方で女性のホワイトカラー的な仕事が少ないのが地方移住に踏み切れない大きな要因である。

女性への優先的仕事の割り振り、例えば公務員・教員・団体職員等、また野心のある方へは企業家としてサポートすべき。